

会で配布し、施設への理解と関心を高めるよう努めた。

(4) 主催事業の効果的運営を図る。

- ① 当施設を利用する学校団体及び社会教育団体の指導者を対象に効果的な施設の利用と充実した活動ができるよう集団宿泊指導者事前研修会を開催し、指導力の向上に努めた。
- ② 自然の中での生活体験を通して、少年のたくましい心身を培う「自然に親しむ少年のつどい」は、参加者自らの創意と協力による手づくりの「住みか」での原始生活体験や15キロメートルの野山道（塩の道と柳津まで）を歩く自然体験を通して、たくましい体と心を育てるとともに、班活動を主体として、自主的、協同生活により、友情を深め、主体性と忍耐力、自然観察力を養うことができた。
- ③ 自然に親しみつつ親子のふれあいを深める「親子キャンプのつどい」や「親子白銀のつどい」は、プログラムに創意改善を加えて、親子のふれあいと他家族との交流が図られ、初期の目的を達成することができた。
- ④ 「レクリエーション実技指導者研修会」は、レクリエーションの技術や指導力の向上を図ること、更に、青少年団体活動の指導者の育成をめざし、関係団体の指導者及び大学生や高校生へも参加を呼びかけ、充実した講師陣によって効果的な研修がすすめられた。

(5) 施設、設備の保全と事故防止の徹底を図る。

- ① 防災組織と責任体制を確立し、日常および月例定期点検、年末点検を実施し、施設、設備の保全に努めた。
- ② 利用者の事故防止のため、事前の研修会や実施踏査あるいは事前の打合せ等の機会をとらえて、引率指導者に対する指導と注意事項に対して徹底を図った。また、「利用の手引き」の活用を図らせた。
- ③ 広範囲な活動エリア内の保全と、山火事防止のため野外コースのパトロール班を編成し、適時パトロールを実施して火災の防止とコースの安全確保に努めた。また、入所時に避難訓練を実施し、利用者の非常時に対する意識を深めた。
- ④ 防火査察、保安点検、所内環境測定等を実施し、事故防止、安全確保に努めた。
- ⑤ 給食委員会を定期的に開催し、食中毒の絶無と食品の衛生的管理にあたるとともに、調理員に対する衛生指導の徹底を図った。
- ⑥ 野外活動の充実と、野外施設の安全な利用のために点検と有害昆虫の駆除に努めた。

(6) 職員研修の充実と資質の向上を図る。

- ① 施設の望ましい運営や指導業務について所内研修を計画的に実施し、職員の資質と指導力の向上に努めた。
- ② 施設近隣の市町村にある文化財等を調査、視察し、活動コースや活動プログラムの開発に努めた。
- ③ 所内における計画的な学習会や他施設の視察研修及び実技研修会(指導法を含む)を実施し専門性の向上に努めた。
- ④ 県内外の施設との連携を密にし、情報交換を行い、研修効果を高めることができた。(県内三施設運営研究協

議会、東北・北海道地区少年自然の家運営研究協議会、全国少年自然の家運営研究協議会等への参加)

3 職員組織

職名	所長	次長	主事	主任 運転手	主任 指導主事	指導 主事	社会 教育 主事	計
人員	1	1	2	1	1	5	1	12

第2節 施設・設備の概要

1 所在地

- 沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495 - 1

2 宿泊定員

- 本館 25室 300名
- ロッジ 10棟 150名
- テント 20張 120名

3 敷地面積

- 251,432 m²

4 建物面積

- 延床面積 5,864.83 m²
- ・管理研修棟 ・宿泊棟 ・プレイホール ・アセンブリホール ・ロッジ ・野外活動管理センター ・野外炊飯場 ・野外トイレ ・車庫 ・浄化槽 ・ボイラー棟

5 設備備品等

- ・フィールドアスレチック ・スキー ・そり ・かんじき ・天体望遠鏡 ・双眼鏡 ・テレビ ・VTR
- ・16%映写機 ・野外活動用具 ・野外炊飯セット
- ・運動用具 ・サイクリング車 ・伝承遊びセット
- ・クラフト用具 ・ピアノ ・オルガン(2) ・アコーディオン ・OLコース ・宮火場(4) ・その他

第3節 利用状況

当施設を利用できる対象者は、次のように大別される。

- (1) 小学校、中学校、養護学校の児童・生徒及び引率者
- (2) 少年団体の構成員及び引率者
- (3) その他、所長が適当であると認めた者

本年度の利用団体数は、255団体、実利用者数 18,292名、延利用者数は、46,509名である。

なお、利用状況の詳細は次のとおりである。

- 1 月別利用状況(別紙 次ページに貼付)
- 2 宿泊数別利用状況(別紙 次ページ貼付)
- 3 研修活動の種類と実施団体数
 - (1) 野外活動(別紙 貼付)
 - (2) 室内活動